

「tovo」について

「tovo/トヴォ」は東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。

チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。

おかげさまで、**2011年6月から2017年2月現在までの総寄付金は、「¥4,867,700」と**なりました。10年間（2011年6月～2021年6月まで）の活動を目標にしています。引き続きのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

青森に「あしなが育英会 ファシリテーター」を ふやしてプロジェクト

「あしなが育英会ファシリテーター」とは、震災や津波で親を亡くした子どもたちの心に寄り添うボランティアのことを指します。

tovoの活動期間は10年。残り5年。この5年が過ぎれば、このプロジェクトは、すぐに皆の記憶からは忘れ去られていきます。そんなことはどうでもイイことですが、でも、消える前に、楽しく支援できる『人』を残したい。ずっと僕が強く思い続けていたことを、今、まだtovoが余力のあるうちに始めたいと思いました。2016年から、tovoでバックアップして、年に1人ずつ、合計5人のあしなが育英会ファシリテーターを誕生させたいと考えています。

おかげさまで、昨年、2016年、1人のファシリテーターが誕生しました。今年も募集しております。2人目になりたいという方、お気軽にご連絡ください。



www.tovo2011.com

TAKE FREE
Vol.14(MAR.2017)

チャリティー缶バッジなどのお取り扱い店（順不同／2017年3月現在）

【青森市】A-Factory/kotabi(コタビ)/アトリエCANOE/
もぐらや/oppen plaza sora/oppen plaza sena/
大澤歯科医院/とき歯科/

【弘前市】HOMEWORKS 4th/bambooforest/
津軽工房社/中国料理 豪華樓

【黒石市】木田理容所

【上北郡】TBT英会話教室

【岡山県岡山市】レストランMint

ボランティア大募集中！

今年トヴォ活動開始より6年を迎えます。ここで新しい風を入れてくれるボランティアを大募集中です！青森県内、県外問わず、残り4年を共に歩んでくださる方、是非ご連絡ください！
メール：小山田和正 (info@tovo2011.com)

フリーペーパー「tovo plus」配布ご協力店（順不同／2017年3月現在）

【山形県】(有)熊谷伊兵治ナメコ生産所 くまちゃんめこ

【茨城県】art space bar conflictable cube コンフリ

【東京都】Only Free Paper/RE:BIRTH STUDIO

【大阪府】はっち

【岡山県】ブックランドあきば岡山高島店/レストラン Mint

【青森県青森市】A-Factory/アピオあおもり/kotabi/
肴ダイニング心/ふたば写真館/もぐらや/
アトリエCANOE/oppen plaza sora/oppen plaza sena/
ヒーリングサロンLULU/カフェ・デ・ジターヌ

【青森県弘前市】まちなか情報センター/弘前市役所/
chicori/弦や/バンブーフォレスト/太平洋画房

【青森県五所川原市】むすぶカフェ えいぶりる

【青森県黒石市】木田理容所/津軽黒石 こみせ駅/
おかのオクムラ

【青森県北津軽郡板柳町】monoHAUS

【青森県上北郡七戸町】TBT英会話教室



「ブックログのpapier」にてPDF配信中！

<http://p.booklog.jp/users/tovo2011>

今年も「アトリエカヌー竹内さんと作るトヴォの天然藍染」はじまるよ！



青森市「アトリエカヌー」の竹内さんと、みんなと一緒に藍の種まきから始めて、育てて、染めて、藍染チャリティー商品を作っていきます！その製品ができるまでの行為も含めてチャリティーにしようと思ったらどうだろう？ということ、去年から始めた藍染プロジェクト。今年もはじまります。ボランティア大募集。ふるってご参加ください。なお、今年のボランティアは以下のような予定です。詳細はウェブサイトなどお知らせします。楽しみましょう。

ボランティア募集中！

- ① 2017年5月初旬（種まき/藍染体験）
 - ② 2017年8月下旬（1回目の刈り取り作業）
 - ③ 2017年9月下旬（2回目の刈り取り作業）
- ※各々の時期は、今年の実気や生育状況によって変わります。

イベント販売

tovoWEEK@ブックランドあきば高島店
期間・2017年3月4日（土）～3月12日（日）
場所・ブックランドあきば高島店（岡山県岡山市国府市場60-4）

トヴォマルシェ
日時・2017年3月11日（土）11:00～16:00
場所・京都市もやし町家（京都府京都市下京区西若松町268）

トヴォの最新情報は以下で更新中です。

tovo2011.com SHOP shop.tovo2011.com @tovo2011

https://www.facebook.com/tovo2011 @tovo2011

【発行】代表：小山田和正 (mail: info@tovo2011.com)
住所：〒037-0056 青森県五所川原市末広町14-1



月刊フリーペーパー

「tovo plus」

について、今の僕が言えるいくつかのこと。

tovo 代表 小山田和正

「青森県に住む100家族に、100ヶ月連続、100号まで、2011年3月11日の東日本大震災についてインタビューし続ける。」なんて、こんなことを始めてしまったのだろうか?と、今さらながら考えはじめたのは、テレビ局によるちょっと長い期間の取材を通して、インタビュアーである彼女がとても粘り強く何度も切り口を変えながら投げかけてくる問いだからだ。その度に、僕は当時のこと、当時の気持ちを思い出そうとするのだけれど、なかなか誰にでも解る明確で簡単な言葉が出てこない。

この「トヴォプラス」というフリーペーパーは、チャリティグッズを販売して寄付をし続けるプロジェクト、つまりトヴォの本体が始まった半年後、2012年3月からスタートした。今は、だんだん仲間も増えてきて、5人でこのフリーペーパーを順番につくっているし、配布店をまわって配本してくれる仲間もできた。でも、はじめは、たった1人で、家族を探して、説明して、日程を調整して、写真を撮って、インタビューをして、文字起こしをして、レイアウトをして、印刷所に入稿をして、できあがったフリーペーパーを持って県内の配布ご協力店をまわった。これを1年間続けた。思い返すと、我ながらよくやってたなぁと思うけれども、辛いとか、キツイとは思っていない。

震災当時、ほとんどの人が「311を忘れない」と口にした。僕もまったく同じ気持ちであったけれども、今朝の朝食の献立さえ忘れてしまう僕は「忘れない自信」はなかった。10分間しか記憶を保てない映画「メメント」の主人公レナードが、忘れても思い出せるよう自らの身体へメモ代わりに刺青を彫り続けるように、僕にはそれを忘れないための少しの痛みと覚悟が必要だった。僕は「青森県に住む100家族に、100ヶ月連続、100号まで、2011年3月11日の東日本大震災についてインタビューし続ける」という方法で、現実と向かい合い続けることにした。

その「現実」とは、つまり、僕らは、もう後戻りできない「震災後の世界」を生きているという「現実」のことだ。時間の経過と共に、その「現実」を生きる家族の一瞬、一瞬を記録していきたい。これが、このフリーペーパーのコンセプト的な動機だ。トヴォプラスで取材する家族は、号数を重ねるごとに、「震災後60ヶ月後の世界(青森)に住む家族」、「震災後61ヶ月後の世界(青森)に住む家族」、「震災後62ヶ月後の世界(青森)に住む家族」...と続いていく。毎月、1ヶ月ごとに、同じ構図で撮影し、同じ質問を繰り返す。もういい加減飽き飽きされているであろうマンネリの中に浮き上がってくるのは、家族の個性と、僕たちがどのようにして「震災後の世界」を受け入れていくのかという過程だ。僕にとっては、青森の100家族を動員して、100ヶ月という時間をかけて製作される「震災後の世界」のコンセプトアルバム(概念芸術)だ。

過程を記録していくことと、支援はイコールではない。僕は、このフリーペーパーは支援を支えるための媒体と位置付けている。当時、僕には、フリーペーパーより先にはじめたチャリティグッズを販売して寄付し続けるプロジェクトを継続的に支える何かが必要だった。活動期間10年と声高にうたってはじめたチャリティグッズ販売だけだと、どの馬の骨かわからないチャリティグッズを買ってくれる人がいるのかどうかも分からなかったし、それが10年も続くのかと言ったら、今だって不安だし、ものすごく怖い。トヴォが継続して活動していくための「仕組み」としてはじめてのが、このフリーペーパーだ。現実的に、毎月、寄付金の総額をアップデートしてお知らせする必要もあったんだけど、それよりも、もっと大事なことがあった。つまり、青森県に住む100家族に、100ヶ月連続、100号まで、東日本大震災についてインタビューし続けるということは、(賛同してくれるかどうかは別にして)1家族1家族に、確実にトヴォの活動を知ってもらえるってことだ。無名の素人のプロジェクトが活動を続けるには、1人1人に直接会って、話して、そして、知ってもらい以外ないでしょうか?と、同時に、トヴォの活動を知ってもらえるというのは、言い換えれば、震災で親を失った子どもたちが、場所は離れていても、僕らと同じ時間を生きているってことを、継続的に意識してもらえらる機会があるってことだ。毎月、号数を重ねるごとに、僕たちも、その子供たちも歳を重ねていく。そういうことを全部含めて、じゃ、青森に住む僕たちは彼らと同じ時代をどのようにして生きようか?そういう問いを僕は毎月、「震災後の世界」の自分に、そして、読者に投げかけている、つもり。とにかく、100ヶ月間は、考えて、考えて、迷い続けようと思っている。(*)

定期購読 (1年間) を承ります

このフリーペーパーは、数名のボランティアによって取材・編集され、「定期購読」の皆様のご支援ご協力により継続的に発行されております。「定期購読」によるご支援を宜しくお願い致します。

「tovo plus～あおもりの100家族、わたしたちのこれから。」

青森県に住む「家族」の写真とインタビューで、東日本大震災以降の「家族」の様子、変化、そして、これからはフリーペーパーを通して、100ヶ月間にわたり伝え続けるプロジェクトです。

SEASON 1 (2012年3月11日～)



SEASON 2 (2013年3月11日～)



SEASON 3 (2014年3月11日～)



SEASON 4 (2015年3月11日～)



SEASON 5 (2016年3月11日～)



SEASON 6 (2017年3月11日～)



SEASON 7 (2018年3月11日～)



SEASON 8 (2019年3月11日～)



SEASON 9 (2020年3月11日～)



GOAL

2020年7月、東京オリンピックで大いに盛り上がっているであろう時期に、僕たちは、静かに、ひっそりと、青森の100家族に、100ヶ月連続で、震災についてインタビューし続けるという目標を達成します。皆が忘れないと誓った震災から10年後、あの日、10歳だった子どもが成人になり、40歳だった僕は50歳になる。僕たちは一体どんな世界に生きているんだろう。